

# 合宿が終了しました！！

夏の大会に向けた最後の追い込み、例年通り8泊9日の日程で学校の宿泊施設（セミナーハウス）を利用し合宿を実施しました。両親から離れ自分たちで考え、自分たちで判断し、自分たちで決断する。そして行動実践する。すべてが野球のプレーに求められている力なのです。

普段の生活の中で当たり前なのが、本当は当たり前ではないということも気付いてほしい。美味しい食事が用意されていること、汚れたユニホームが次の日にはきれいになっていること、健康を管理すること、自分のやりたい野球をやらせてもらっていること、自分の力で生きているんだと思っている錯覚に気付いてほしいのです。だからこそ、今自分でできるこ

とは手を抜かずに精一杯、全力で取り組んでほしい。そのことが普段の生活の中で、両親をはじめとする人たちに支え協力してもらっていることに対して、最高の恩返しになるのです。高校生だから、まだ周りの支えや協力を得ながら自分のために精一杯、全力で頑張ってもらいたいのです。

ぜひ『自分ができる努力』『自分ができる準備』『自分が活躍するための練習に対しての姿勢』に力を注いでください。好きな野球で活躍している姿を見たいから、高校生活が最後の支えと協力になるから、我が子と一緒に頑張ること、我が子と一緒に戦うこと、我が子と一緒に公式戦で勝つと言う目標で生活することが最後になるから、ご両親は毎日我が子のサポートに徹してくれているのです。

この合宿で野球も日常の生活も、やりきる力を持っていることは理解できたと思います。やればできるのです。やれないことを求められている訳ではないのです。あとは監督の私に強制されて見張られて『やらされる』のか。力があることは理解できたから、その力を自分の意欲で引き出し、今以上に成長させる努力を『自分自身でやる』のか。

そこがこのチームの大きな課題です。この課題は誰かに手を借りやってもらうことではありません。ご両親に支え協力してもらうことではありません。解決するのは大人ではありません。この課題は高校生である選手の課題なのです。自分自身で乗り越えなければいけない課題なのです。

この合宿でそのことに気付き、勇気を持って前向きに自分のために、チームのために、応援してくれている人のために頑張れる選手、チームになってくれればと思っています。夏の大会までラストスパートです。自分を自分のチームを自分で自分たちで追い込んでください。

最後に今回の合宿をご理解いただいた方々、ご協力していただいた方々、この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

帯広南商業高校野球部 監督 小林 真基

# 合宿を終えて

毎年恒例の合宿が終了しました。8泊9日の合宿は精神的、肉体的な能力の向上、親からの自立、個人の技量のレベルアップ、さらにチームメイトと寝食を共にすることで、チーム力の向上を目的として行っています。今回の合宿も3年生最後となる夏の大会に向けてチーム一丸となって乗り切りました。

合宿中は、あまり天候に恵まれませんでした。選手一人ひとりが克服しなければいけない課題を常に念頭に置き、自分の取り組むべき練習をしました。また、合宿中にも遠征に出向き、4試合をこなしました。そこでも、新たな課題を見つけ、グラウンドに戻ってからは、その課題の克服に時間を費やしました。

合宿では、食べるトレーニングもしています。1日2,000g以上の米を食べ、ハードな練習をしても体重をキープしながら乗り越えられています。最初は食べることに苦労しますが、日頃から食べるトレーニングをしているので、徐々に体重も増え、上級生になると自分の分だけでなく、苦しんでいる後輩の分も手伝えるほど多くの量を食べることができるようになります。

夏季十勝支部予選まで残り日数は少ないですが、限られた日数でチーム、個人の技量を最大限まで引き出し、目標である北北海道大会出場を目指してチーム一丸となって頑張っています。

3年生 帯広緑園中学校出身 金井 幹太